

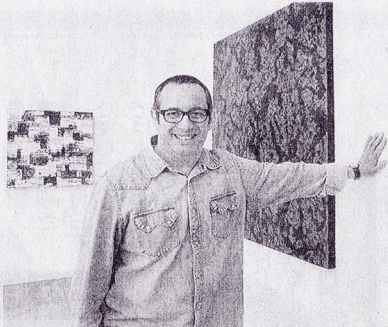
# 抽象画と怖い仮面

## 岡崎 2題の風変わり展覧会

「風変わった二つの展覧会が二十六日まで、岡崎市内で開かれている。一方はパリやニューヨークの美術界で注目を集めている一流抽象画家による個展で、日本では首都圏の著名画廊でしか見られないような貴重な芸術鑑賞の場だ。もう一方は世界各国の民俗仮面を一堂に並べており、来場者が思わず「怖い」と口にする異様なムードが漂っている。いずれも観覧無料。(梅本秀基)

### 作品並べた会場 全体で人間表現

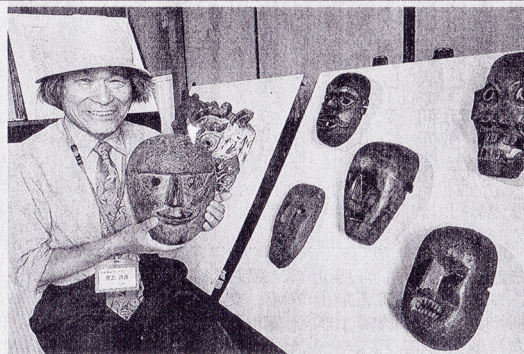
画家アーノウさん 抽象画家の個展は、岡崎市朝日町のザ・ブルーボックスギャラリーで開かれている。パリ生まれでニューヨーク在住のアーノウ・ギバシユテインさん(50)が「心」をイメージした作品を並べ、会場全体で「人間を表現した」とアーノウさん。最終日まで会場に詰める予定で「欧米の美の心を持つてきた。岡崎の方々」と芸術談議ができれば「うれしい」と話す。隣二十三点のエナメル画を披露した。妻雪絵さん(48)の両親が岡崎で暮らしているのが縁で実現した。



「岡崎の方々とは芸術談議を楽しみたい」と話すアーノウさん。パリなどの美術界で注目の抽象画家だ＝岡崎市朝日町のザ・ブルーボックスギャラリーで

### 各国民衆の喜び 悲しみがにじむ

不二さん 民俗仮面の展示は、岡崎市欠町の旧本多忠次邸が会場。工学博士でもある市内の収集家の不二真直さん(70)が、学術研究で世界を回る傍ら集めた百七十点余の収蔵品の中から五十の民俗仮面を披露するが、不二さんは土着の民衆の喜びや悲しみがにじみ出るのが仮面の魅力と話す。(岡ザ)



自慢の民俗仮面を披露する不二さん＝岡崎市欠町の旧本多忠次邸で

がにじみ出るのが仮面の魅力と話す。(岡ザ)

# 世界の仮面50点初展示

## 民族・土着に親近感

### コレクター 不二真直さん

岡崎市東公園内の旧本多忠次邸で二十一日、「不二真直の民族仮面展」語りかける仮面たち」が始まった。岡崎市朝日町の「不二真直」こと藤谷幸弘さん(70)が四十年以上収集したコレクションのうち、アフリカやチベット、日本などの木の仮

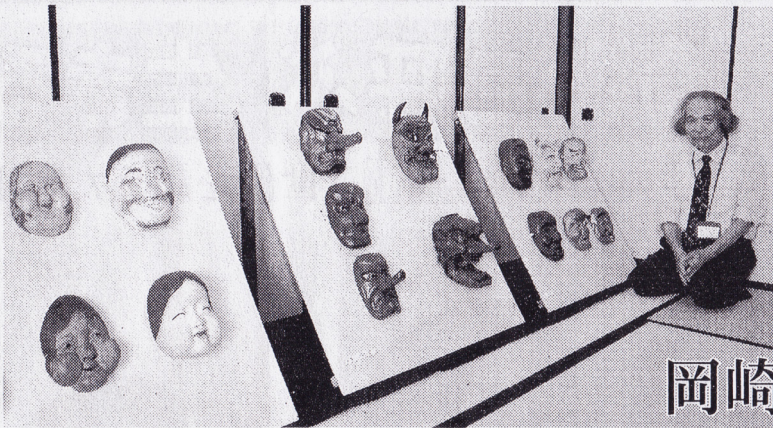
面五十点を展示している。二十六日まで。

△(移動美術館)を立ち上げた。今回が初めての展示会で、広報用のホームページも準備しているという。

藤谷さんは世界各国の仮面を、旅行先や日本の骨董店、ヨーロッパのアンティークバザールなどでこつこつと買い集めた。その数、百七十点余り。「民族仮面の表情には、その民族の心やエネルギーが込められている」と魅力を語る。

数年前にコレクションが百五十点を超え、「各地の人たちにも仮面の面白さを伝えたい」と、不二真直名義で「モバイルミュージア

## 岡崎 旧本多忠次邸



会場に並ぶ仮面と不二真直こと藤谷幸弘さん 岡崎市東公園内旧本多忠次邸で

ム」(移動美術館)を立ち上げた。今回が初めての展示会で、広報用のホームページも準備しているという。

会場には、祭りや祭礼などで使われたとみられる特徴的な仮面が、専用の展示台に組み付けて展示されている。

藤谷さんは、「チベット系の仮面は、造形がデフォルメされているが、表情の奥に哀愁が感じられる」「アフリカの面は、全体的に表情を抑えたものが多く、特徴を語り、「面の面白さを伝えた」と、不二真直名義で「モバイルミュージアム」(移動美術館)を立ち上げた。今回が初めての展示会で、広報用のホームページも準備しているという。